

国内 5G通信サービス市場予測を公表

Japan, 2020年5月25日 - IT専門調査会社 IDC Japan 株式会社 (所在地: 東京都千代田区九段北1-13-5、代表取締役社長: 竹内正人、Tel代表: 03-3556-4760) は、国内5G通信サービスの市場予測を公表しました。これによると、2024年末の国内5Gネットワークの回線数は6,024万回線、2020年~2024年の年間平均成長率 (CAGR: Compound Annual Growth Rate) は107.6%になると予測しています。

国内のモバイル通信サービス市場における2019年末時点での回線数は約1億8,680万回線でした。同市場の回線数は、2019年~2024年の5年間にCAGR 4.0%で成長し、2024年末には2億2,763万回線に達すると、IDCでは予測しています。2019年末時点では、モバイル回線の多くが、人によるスマートデバイス (スマートフォンやタブレットなど) 利用のために使われています。一方、IoT (Internet of Things: モノのインターネット) 用の回線数も急速に増加しており、すでに市場の回線数の一定比率を占めるまでになっています。IDCでは、今後の国内モバイル通信サービス市場の成長の大部分が、IoT用回線の増加によってもたらされるとみています。

国内モバイル通信サービス市場への新型コロナウイルス感染症の影響については、オンライン学習の浸透や在宅勤務によるリモートアクセスの増加などが、需要をやや押し上げるとみています。一方で、今後の経済状況の悪化による解約や外出先での通信の減少などによって、市場が押し下げられる可能性も考えられます。しかし、モバイル通信サービスはサブスクリプション型サービスであり、かつ生活やビジネスに不可欠なものであるため、他のITセグメントに比べてマイナスの影響は小さいと予測しています。

2020年3月に商用サービスを開始した5Gは、既存のスマートデバイス用途のLTE回線の置き換えと、コネクテッドカー、ヘルスケア機器を始めとする新たなIoT機器の接続需要の増加などによって普及が進み、2024年には国内モバイル通信サービス市場全体の26.5%を占めると予測します。ただし、新型コロナウイルス感染症の5G普及への影響については、5G

端末の供給の遅れや、一部のIoTプロジェクトの遅延などが、若干マイナスに働くとIDCではみています。

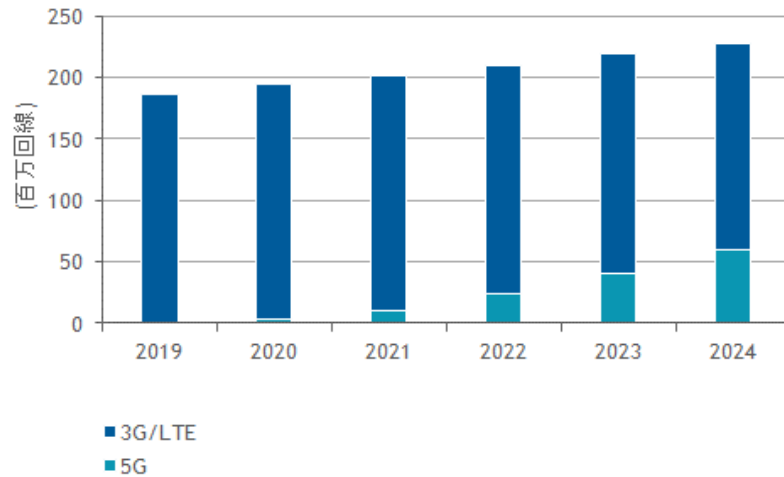
5Gは、新しいアプリケーション体験をもたらし、より効率的な社会の実現に寄与すると考えられます。しかし、これらの実現には、5Gに加えて、デバイスやアプリケーション分野でのイノベーションや普及によるコストダウンが必要になります。IDC Japan コミュニケーションズのリサーチマネージャーである小野 陽子は、「通信事業者は、5Gに関連するデバイスやアプリケーションを開発する企業と協業し、イノベーションの推進と新たな製品 / サービスのプロモーションなどによる普及に注力すべきである」と述べています。

今回の発表はIDCが発行した[国内通信サービス市場予測、2020年～2024年：新時代のネットワークサービスへ](#)にその詳細が報告されています。本レポートでは、モバイル通信サービス、固定通信サービスの市場規模予測をまとめています。なお、固定通信サービスには、WANサービス、パブリッククラウド接続用途のWANサービスなどが含まれます。

< 参考資料 >

国内5G通信サービス市場 世代別
回線数予測： 2019年～2024年

Figure 1



Note: セルラー系IoT回線含む

Source: IDC Japan, 5/2020

IDC is a subsidiary of IDG, the world's leading technology media, research, and events company. Additional information can be found at www.idc.com. All product and company names may be trademarks or registered trademarks of their respective holders.

For more information contact:

jp-Press Japan
 jp-press@idcjapan.co.jp
 +81-3-3556-4768